	1	
プログラム名	なぁににタッチ?	
対象年齢	年中 (4~5歳)	
ね メッセージ ら い 発見・体感	・自然界は多様なもの(動植物、 ・さまざまな自然物に親しみ、自 ・野原や公園にある自然物の感触	石、水、土など)で成り立っていることに気づこう 然を大切にする気持ちを持とう
できること	・擬態語からイメージする感触が	人によって異なること
参加者のめやす	幼 児 5~30 人	/ 支援者 2人
実施時間	3 0 分	
フィールド	森· 社寺林・	
	公園 山・里山 川	湖·池 野原 <mark>公園</mark>
実施可能時期	** *** ***	
自然を感じる ためのヒント		
時間	活動	配慮・アドバイス アレンジ
		広範囲になりすぎないよう、場所を決めて実施しまう。 「おーちた おちた」の遊びの歌と同じリズムで飲えるよう、みんなで楽しく練習しておきましょう。 「おーちた おちた」の遊び方 言葉とそれに応じた動作を決める。 雷 おへそに手をあてる リンゴ 口に手をあてる (食べる) 石 頭に手をあてる 支援者が「おーちたおちた」という。子どもたちは「なーにがおちた?」ときく。支援者は、決めておいた言葉の一つを言う。子どもたちは、言葉に合った動作をする。
6分(~)		感触を表す言葉の例 ねばねば、さらさら、ぬるぬる、 ざらざら、べたべた、ちくちく つるつる、にゅるにゅる など 感触を表す言葉だけでなく、においや色を表す言葉、「木」や「石」、「ほっぺ」、自然物以外のものの名前にしてもおもしろいでしょう。

時間	活動	配慮・アドバイス アレンジ	
2分	言われた感触のものを見つけ たら、タッチして帰ってくる	フィールドが園庭や公園であれば、タッチする対象 物は、自然物だけでなく既製遊具などの人工物も混在 することから、それらの違いについて感じとることが できるでしょう。	
3分	友達がタッチしたもののとこ ろへみんなで行き、観察して確 認しあう		
	一番に帰ってきた子が次のオ ニになる		
	~ を繰り返す(3回)		
6分	みんなで活動をふり返る	他の人が発見したことや感じたことをみんなで分かち合います。自分が見つけたもの以外にさまざまなものが存在することや、一つの擬態語からイメージするものが人によって異なることを話し合います。	
【異年齢への対応】			

年少:「ターッチ、タッチ、体でタッチ」という遊びにアレンジします。指示する言葉を「大きな 木」、「地面」などの具体物とし、みんなで同じものにタッチします。慣れるまでの最初の 数回は、支援者がオニの役割をする方がよいでしょう。

年長: の活動で、ルーペを使ってみましょう。

「なぜ、ざらざらするのか?」表面をじっくりと観察することができます。

【園や家庭へ帰ってから】

身の回りのさまざまな人工物に触れてみて、自然物との違いを感じましょう。

「自然の中で、もしが無かったら?」(例えば「木」)と問いかけ、どのような気持ちに なるか、どんな影響が考えられるか、みんなで話し合ってみましょう。 自然界のさまざまなモノがつながっていることへの気づきを促します。

準備物・ 教材等



